

帰依住職の

イツペー

チビラーサン

▶ 9

沖繩の年中行事

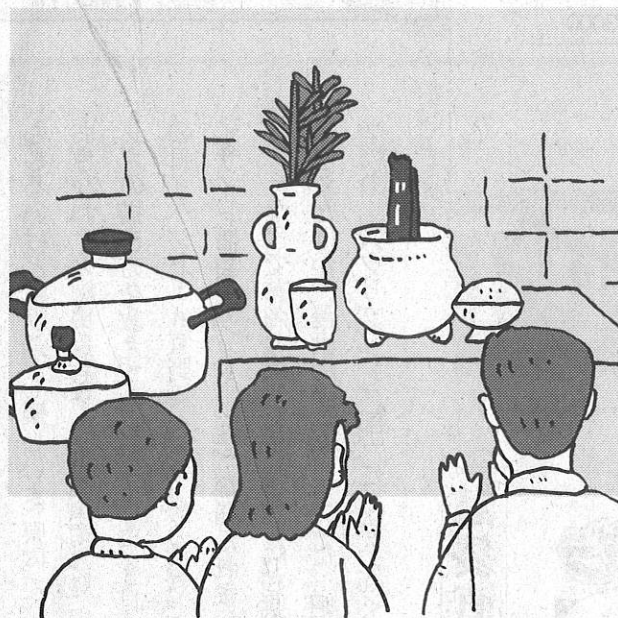
御願解き

1年を報告ヒヌカン送る

昔の沖繩では、台所の竈かまどの神様を石ころ3個で表現し、御三物（ウミンチムン）と呼んでいました。台所の

神様のように、目で見えない大切な方を敬うとき、自然の石ころや樹木などを用いるのは、沖繩の年中行事の中で特に多く見られる傾向であると言えます。地域によっては、この御三物をきれいに海水で清め、さらにその大切さを実感する場合もあつたとのことです。

竈の神様のことを、沖繩ではヒヌカン（火の神）と言います。ヒヌカンは、台所の神様であることから、広い意味で私たちの食生活や日常生活に深いかかわり



のある神様とも考えられています。ヒヌカンは、旧暦12月24日になると天に昇り、玉皇大帝きんぎょうたいていという偉い方に、その家族、住宅の1年を報告するのだそうです。現代の私たちからは、

少し想像することが難しいかもしれない世界ですが、この報告のため出発するヒヌカンをお見送りする行事のことを、御願解き（ウグワンプトゥチ）と言います。同時にいつも住んでいる

い取つたりします。

このような大掃除は、御願解きの日にしかできないというような考え方もあるようですが、本来の沖繩の年中行事の原点に返りますと、日常の生活の中で常にヒヌカンの大切さを忘れなないようにするべきでしょう。そうすれば、私たちはいつも感謝をするということでも優しい心を持ち合わせたウチナーンチュになれるのではないのでしょうか？

住宅をお清めし、そこに住む家族の幸せを願う、その1年が無事であつたことを感謝する大切な日でもあります。この日には家族は台所のヒヌカン（現代は、石ころ3個ではなく、白色の御香炉うらなに対して、お塩やお米、地域によってはお酒、お茶、お水をお供えして、

（とても素晴らしいですね）！ 次回は、この御願解きの作法についてお話させていただきます。

一年を通して焼香した御香炉の灰をきれいに掃除します。燃え残った平御香ひらごうという黒色の平らなお線香をていねいに取り除いたり、また山盛りになった灰をスプーン等で3回に分け、すく

タイムスカルチャーセンター「基礎から学ぶ沖繩の年中行事」講師）

筆者は住職ですので、

ヒヌカンについては経験されている方にお尋ねくださ

い